

記念講演要旨

記念講演1

座長：小野寺 節

インフルエンザの歴史

東京大学大学院農学生命科学研究科 ほりもと たいすけ 堀本 泰介

インフルエンザの起源は？「ある日突然多数の住民が高熱を出し、震えがきて咳が盛んになった。たちまち村中にこの不思議な病が拡がり、住民たちは脅えたがすぐに去って行った」。これは紀元前412年の「医学の父」ヒポクラテスによる記録である。わが国では「三代実録」(862年)という古書物の中に「一月自去冬末，京城及畿内外，多患，咳逆，死者甚衆」と書かれている。などなど，世界中でインフルエンザと思われる記載が時代を越え数多く残されている。しかし，インフルエンザが科学的に正しく判定できるようになったのはここ100年余りに過ぎず，こういった過去の記載がインフルエンザである真偽は不明である。血清考古学的には1889年に感染した名残であるA型インフルエンザウイルス抗体(H2N2)が後に検出されているが，ウイルスが初めて人から分離されたのは1933年のことである。人での流行の歴史は，H3N8(1900年)，H1N1(1918年スペイン風邪)，H2N2(1957年アジア風邪)，H3N2(1968年香港風邪)，H1N1(1977年ソ連風邪)，そしてH1N1ウイルス(2009年パンデミック)という順になる。また，1940年に初めて分離されたB型ウイルスは，今でも流行を繰り返している。

一方，全てのA型インフルエンザウイルスは鳥のウイルスを起源とするという理解に則れば，鳥インフルエンザウイルスは人ウイルスが出現する遙か前から伏在していたと考えられる。高病原性鳥インフルエンザの最初の記載は1878年イタリアで発生した家禽の致死性疾患である。1901年に分離されたA/chicken/Brescia/1902(H7N1)が現存する最古のウイルス株になる。わが国では，1925年に奈良や東京，千葉などで発生した“鶏ペスト”が最初の高病原性鳥インフルエンザ[A/chicken/Japan/1925(H7N7)]であるとされる。その後も鶏(家禽)ペストと診断された疾病は各地で発生し養鶏業に被害を及ぼしたが，後にそれらはニューカッスル病であったと血清試験で判明し，1950年頃に家禽ペストとニューカッスル病が別の疾患として区別されるようになった。その後，家禽ペストは高病原性鳥インフルエンザと改称された(2003年)。2005年には件のH5N1高病原性鳥インフルエンザがわが国にも侵入した。実に79年振りの発生である。このH5N1ウイルスは，1996年の中国ガチョウ農場での感染に端を発し，その後世界各地に

広がった。本講演では、H5N1ウイルスを含めた高病原性鳥インフルエンザに関する研究の歴史などについてまとめてみたい。

HORIMOTO Taisuke : History of Influenza

(2012年10月27日記念講演要旨)

記念講演2

座長：中山裕之

日本愛犬史

— ヒューマン・アニマル・ボンドの視点から —

日本獣医史学会理事長 小佐々 学

筆者は長年にわたり全国各地の古い犬の墓(犬塚)の調査研究を続けており、その成果は主に日本獣医史学会で報告した。特定の犬の死を悼んで弔うために建てられた古い犬塚のほとんどが義犬(=「忠犬」の旧名)の墓であり、また義犬の墓は愛犬や伴侶犬の墓であった。したがって、義犬の墓の歴史は、わが国における動物愛護や動物福祉の歴史であることも分かってきた。伝説・伝承や古代史料に記載された犬塚をはじめ、江戸時代初期からは史実として手厚く葬られた犬たちがいたにもかかわらず、筆者が調査するまで、それらの存在はほとんど知られていなかった。また、調査対象を古代から幕末維新时期前後までの古い犬塚に限定したのは、欧米の動物愛護思想の影響がほとんど及んでいない時代における、日本人の動物観、人と犬との関係など、日本におけるヒューマン・アニマル・ボンド(HAB:人と動物の絆)の歴史を知ることができると考えたことによる。今回は、犬塚の歴史を中心にして愛犬や伴侶犬の歴史の概要を述べてみたい。

まず、伝説・伝承の犬塚として、聖徳太子の愛犬「雪丸」塚(奈良県)、人身御供伝説の犬塚(兵庫県・長野県・山形県)、大蛇伝説の犬塚(大阪府・愛知県・佐賀県)、弘法大師伝説の犬塚(香川県・徳島県)、播州犬寺の義犬塚(兵庫県)、蓮如の犬塚(滋賀県)、羽犬塚(福岡県)、老犬神社(秋田県)などがある。次に、古代史料記載の犬塚としては、『日本書紀』の捕鳥部萬の白犬墓、『播磨国風土記』の品太(応神)天皇の狩犬麻奈志漏の墓などがある。

さらに、史実の犬塚では、日本最古のものは江戸時代初期の1650年の小佐々市衛門前親の義犬「ハナ丸(華丸)」の墓(長崎県大村市)である。さらに、1787年の加藤小左衛門の義犬「矢間」(長崎県雲仙市)、1835年の暁鐘成の愛犬「皓」(大阪府東大阪市)、1853年の横田三平の義犬「赤」(高知県安芸市)、幕末の1866年の町火